



中村 尚史 (NAKAMURA Naofumi)

東京大学社会科学研究所 教授

九州大学大学院文学研究科史学専攻博士課程修了。
博士 (文学、九州大学)。

東京大学社会科学研究所助手、埼玉大学経済学部助教授、東京大学社会科学研究所助教授・准教授を経て 2010 年より現職。この間、国際日本文化研究センター共同研究員、Sheffield 大学客員教授、London 大学 LSE 経済史学科 Visiting Senior Fellow、フランス社会科学高等研究院 (EHESS, パリ) 客員教授、日本学術会議 (第一部会) 第 21 期連携会員を兼任。

専門は日本経済史・経営史。とくに明治期の鉄道業史や地域経済史を研究している。また最近では、オーラル・ヒストリーの手法を用いた戦後史に注力しており、『中内功回顧録』(2006 年、流通科学大学) のような経営者の研究や、『汽笛の記憶: 鉄道員のオーラル・ヒストリー』(2006 年、鳥栖市)、『激動期の労使関係: 釜石製鉄所労政・労組のオーラル・ヒストリー』(2010 年、東京大学社会科学研究所) といった作業現場の研究を手がけている。

主な著書は、『日本鉄道業の形成—1869~1894 年—』(日本経済評論社、1998 年)、『商品流通の近代史』(中西聡氏と共編著、日本経済評論社、2003 年)、『希望学第 2 巻 希望の再生: 釜石の歴史と産業が語るもの』(玄田有史氏と共編著、東京大学出版会、2009 年)、『希望学第 3 巻 希望をつなぐ: 釜石からみた地域社会の未来』(玄田有史氏と共編著、東京大学出版会、2009 年)、『産業革命と企業経営: 講座日本経営史 2』(阿部武司氏と共編著、ミネルヴァ書房、2010 年)、『地方からの産業革命: 日本における企業勃興の原動力』(名古屋大学出版会、2010 年)、『炎の記憶: 釜石製鉄所労働者のオーラル・ヒストリー I—製鉄・製鋼編—』(青木宏之氏・梅崎修氏・仁田道夫氏と共編、東京大学社会科学研究所研究シリーズ No.43, 2011 年)、『炎の記憶: 釜石製鉄所労働者のオーラル・ヒストリー II—圧延・設備編—』(青木宏之氏・梅崎修氏・仁田道夫氏と共編、東京大学社会科学研究所研究シリーズ No.44, 2011 年)、東大社研・中村尚史・玄田有史編『持ち場の希望学—釜石と震災、もう一つの記憶—』(東京大学出版会、2014 年)、『海をわたる機関車: 日本鉄道業形成の国際的契機』(吉川弘文館、2016 年) など他多数。

経営史学会賞 (1996)、産業技術史学会奨励賞 (1997)、優秀社史賞 (2002、2008)、交通図書特別賞 (2004)、不動産協会優秀著作奨励賞 (2009 年)、企業家研究フォーラム賞 (2016) など受章。

【東京大学講師陣】